

■ 平山郁夫シルクロード美術館 News ■

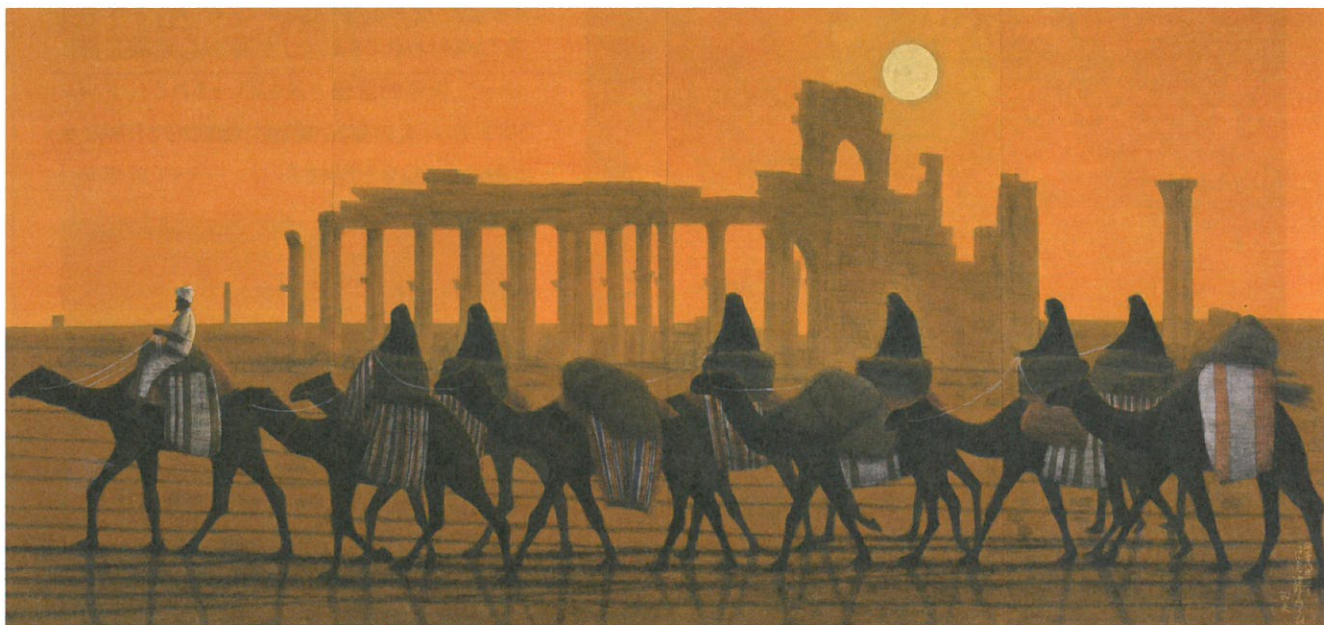
■ The Hirayama Ikuo

■ Silk Road Museum

■ News

No.21

平成28年3月発行



《パルミラ遺跡を行く・朝》

2006年 183.0cm×362.0cm

平山郁夫は、この美術館が完成してから亡くなるまで、およそ5年のあいだに2階の大展示室を一巡するように、シルクロードを旅するラクダのキャラバンを描きました(大シルクロードシリーズ)。舞台は、中国西域の楼蘭、アフガニスタンの砂漠、インド北部のジャイサルメール、そしてシリアのパルミラ。それぞれに朝日に照らされたキャラバンと、月光を浴びて歩を進めるキャラバンが対比されています。

本作はこのシリーズのうちの一点で、背景に描かれているのは、昨年、イスラム過激派による破壊が報道された世界遺産パルミラ遺跡です。シリア中央部に位置するパルミラは、砂漠の中のオアシス都市として建設されました。ローマ帝国と東の遊牧民の国パルティアとの仲介交易で大いに繁栄し、古代ローマ風の壮麗な神殿や記念門が作られました。しかし、三世紀後半、女王ゼノビアはローマ帝国に対し、独立を求めて反旗を翻したため、パルミラ王国は滅ぼされてしまいます。ラクダに乗った人物が先頭の男性を除いて、全員、黒いベールを頭からかぶった女性であるのは、女王ゼノビアへの敬意を表していることです。パルミラの遺跡は破壊されてしまいましたが、平山は平和への願いをこめ、文化や民族の違いを超え、旅をつづける隊商をこの大画面に描きました。



平山郁夫シルクロード美術館

展覧会紹介 The Hirayama Ikuo Silk Road Museum Exhibition

「煌めく布—金更紗と金糸織—」

2016年3月12日(土)～2016年6月21日(火)



「クリシュナ図描金更紗(ビジャバイ)」綿 描絵/印金 インド 18世紀

光り輝く「金」は、世界のあらゆる民族の美術工芸において、特別なものとして、古来より用いられ、人々を魅了してきました。東西を問わず王者あるいは権力者の墓からは必ずといっていいほど各種の黄金製の金製品が出土しています。光り輝く金銀を衣服の飾りとして着用しようとする試みも非常に古くから行われてきました。本展では、染織芸術において、世界的評価の最も高いとされるインド、インドネシアの「金の布」を展覧し、繊細かつ大胆な金の魅力をご覧ください。



「赤地無地金銀更紗」スレンドン 綿 印金 スマトラ島バレンバン 20世紀

同時開催

シリーズ展示

平山郁夫 欧州写生絵巻 フランス

1962(昭和37)年、平山郁夫32歳のときのヨーロッパ留学でのスケッチを絵巻物に仕立てた「欧州写生絵巻」(全19巻)のうちフランス3巻を一挙に公開します。※共通入館券をご覧ください。

Information

- ◆会 期 2016年3月12日(土)～6月21日(火)
※会期中無休
- ◆開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◆観 覧 料 一般1200円／高・大学生800円／小・中学生無料
※障害者手帳をお持ちの方無料、介護の方1名まで600円
※70歳以上の方、20名様以上の団体 各100円割引
- ◆主 催 公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館
- ◆後 援 山梨県、山梨県教育委員会、北杜市、北杜市教育委員会、
山梨日日新聞社・山梨放送、信濃毎日新聞社、八ヶ岳ジャーナル、
テレビ山梨、FM富士、FM八ヶ岳
- ◆協 賛 キリンビール株式会社



《昭和三十八年三月二十一日フランス ジョービニーの町並》

次回の展覧会案内

「平山郁夫 道遙か」

2016年6月25日(土)～2017年1月9日(月)

平山郁夫の初の自叙伝的画文集「道遙か」(日本経済新聞出版社)に収められた挿絵を中心とした平山絵画を一堂に会し、平山郁夫の足跡をたどります。



第6回 シルクロード研究会 開催のお知らせ

6回目となる今回は、平山コレクションの中から「鼻煙壺」をテーマに取り上げます。当研究会では初公開となる中国の「鼻煙壺」(約40点)について、学芸員と共に手に取りながら鑑賞していただきます。なお、当研究会は、日本画家・平山郁夫が数多くの大作を生み出したアトリエ庫庵こあんにおいて開催いたします。研究会終了後は、しばしご歓談をお楽しみいただき、平山画伯が生前親しんだ茶室「寂静庵」もご覧いただけます。



●期日：平成28年3月26日(土) 14:00～16:00(予定)

●場所：神奈川県鎌倉市二階堂120-15

当館鎌倉事務局内(平山郁夫アトリエ)

●参加費：お一人様3,500円、賛助会員3,000円

●申込：参加希望の方は、お電話またはFAXにてお申し込み下さい

平山郁夫シルクロード美術館事務局 喜安宛

TEL 0467-25-0251 FAX 0467-61-3435

他会場で見られる平山郁夫シルクロード美術館コレクション

◆「平山郁夫が描く灼熱のシルクロード、日本の緑」展

1月28日(木)～6月5日(日)／平山郁夫美術館／平山郁夫の作品2点(「流水間断無」「八雲立つ」)

◆「平山郁夫-遙かなるシルクロードと北海道-」展

2月6日(土)～3月21日(月・祝)／北海道立近代美術館／平山郁夫の作品20点、ガンダーラ彫刻、ガラス器、コインほか102点

◆「世界の文字の物語:言葉のかたちと文化(仮題)」展

4月9日(土)～6月5日(日)／古代オリエント博物館／粘土板、円筒印章ほか20点

インドネシア、金更紗との出会い

平山郁夫シルクロード美術館館長
平山美知子

1980年3月20日から約2週間、毎日新聞社主宰のインドネシアの仏教芸術視察団に加えていただき初めてインドネシアにゆきました。作家の井上靖先生、東大寺の清水公照師、インドネシア語が堪能な奥源造先生といったちょっと気むづかしそうな先生方で、私は小さくなっていました。先づジャカルタに着き、インドネシア在住の日本人の方のお出迎えで大歓迎でした。翌日、ジャカルタ在住のクスマ姉がインドネシアの布を沢山お持ちとうかがい見せていただき、初めてインドネシアのバティックが素晴らしいものであり印金更紗は質の高いものである事に驚きました。夕方時間をみて商店街をみて廻りましたがクスマ様がお持ちの様な布は一枚もありませんでした。

翌日ジョグジャカルタへ飛びボロボドゥールを見学しましたが、かなり壊れていて雨も降り出したので先生方にはホテルに先行していただき、平山と私だけが残り平山は雨の中で必死に写生を続けました。平山の傍らで私は傘をさしていたのですが、何処かの石と石のすき間から鼠が出て来て、私たちが食べ残した水瓜を食べ始めたのには驚きました。平山が動物たちと一緒に食事したのは初めてだったと思います。鼠との思ひ出は忘れられません。



それから4年たってインドネシアの日本大使館が新しく出来たので、ジャカルタの日本大使館へ山崎大使からのご招待がありました。その上に何か希望があればと云って下さるので「バティック」といわれるインドネシアの布が見たいと申し上げたのです。1984年3月、大使のお誘いに遠慮せずに伺ひました。新しい大使館の大広間はまだ家具が入っていないので雨天体育



場の様に広々している床にジャカルタで一番の骨董商ジョディが手持ちの印金バティックや見たこともない美しい布をびっしりと並べてくれていたのです。大使夫人と私は裸足になり布の間を走り廻りました。思ひがけない金額に持合はせがなく、山崎大使にお金までおかりする事になりました。普通では見ることも手に入れる事も出来ない貴重な布の数々は、その後できた美術館に展示しても恥ずかしくないものばかりだった事は確かだったのです。

其の後、印金更紗の本を出す事になり、1987年9月15日大阪の国立民族学博物館の吉本忍先生御先導で講談社の第一出版センターの写真班大崎文子姉達とインドネシアのスマトラ島のパレンバンに結婚式の取材にゆく事になりました。花婿、花嫁はきらびやかな衣装で嬉しそうでした。衣装の中には古いものもありましたが今出来のカシュー染料に金粉(にせもの)をまぜたものもあった様です。



◆アフガニスタン流出文化財返還へ

アフガニスタン流出文化財返還へ

緊急企画展「流出文化財返還記念 アフガニスタンと平山郁夫」を開催します

会 期 2016年3月12日(土)～6月21日(火)

今年の1月から6月にかけて、九州国立博物館と東京国立博物館(表慶館)で、巡回開催される特別展「黄金のアフガニスタン―守りぬかれたシルクロードの秘宝―」では、アフガニスタン国立博物館に秘蔵されていた、美しい古代の黄金製品が紹介され、大きな話題となっています。同展では、平山郁夫が提唱し、日本で「文化財難民」として保護された「アフガニスタン流出文化財」(全102件のうち15件)も特別出品され、これを機に「流出文化財」がアフガニスタン政府に返還されることが決まっています。

これまで平山郁夫の遺志を継ぎ、「流出文化財」を一部保管してきた当館でも、これにあわせ、アフガニスタンにおける平山郁夫の軌跡をたどる緊急企画を開催することとなりました。平山郁夫が1968年にはじめてアフガニスタンを訪問したときの貴重なスケッチ記録や、パーミアンの大石仏が破壊された直後に描いた《パーミアン大石仏を偲ぶ》(2001年)、荒廃した同地を再訪したときの記録映像などともに、アフガニスタンの復興支援と文化財保護活動を展開し画家の足跡をたどります。

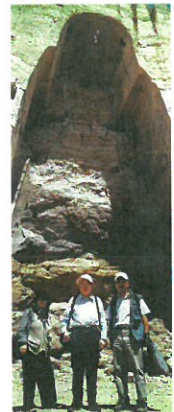
世界平和のための文化財保護活動を推し進めた平山郁夫の思いを継承するために企画した特別展示です。みなさまのご来館をお待ちいたしております。

特別サービス

九州国立博物館と東京国立博物館(表慶館)で、巡回開催される特別展「黄金のアフガニスタン―守りぬかれたシルクロードの秘宝―」に来館されたお客様は、入場チケット半券の提示により300円引きになります。



平山郁夫
《パーミアン大石仏を偲ぶ》
(平山郁夫美術館所蔵2001年)



2002年
破壊後の大仏前で

◆第8回、9回平山郁夫絵画教室開催 地元中学校にて絵画教室を開催

平成21年、平山郁夫が講師となり、小学生を対象に「絵を描く楽しさを伝えたい」をテーマに「第1回平山郁夫絵画教室」を開催しました。翌年からは、北杜市と東京藝術大学の連携協定のもと、東京藝術大学の講師をお招きして授業を行い、今年も中学校2校を対象に実施しました。

- ①第8回:小淵沢中学校2年生A組23名、B組24名/実施日:10月1日(木) 3-4、5-6校時
- ②第9回:武川中学校2年生25名/実施日:12月15日(火) 5-6校時
- ◆主催:公益財団法人 平山郁夫シルクロード美術館 ◆協力:北杜市、北杜市教育委員会、東京藝術大学COI拠点
- ◆講師:平論一郎先生(東京藝術大学 COI研究推進機構 Arts & Science LAB. 特任講師)

2つの学校では、「日本画」と「文化財」をより手軽に伝えるための絵画ワークショップを実施しました。2校とも、冒頭に東京芸大が開発した文化財複製特許技術を用いて制作した高精細複製物を鑑賞してもらい、日本文化を子どもたちに伝え、文化を育む時間を設けました。その後、小淵沢中学校では日本画の粒子感のある下地(西嶋和紙)の上に、それぞれ思い出の写真を事前にモノクロで印刷し、その上から絵具で彩色することにより、手軽に日本画を体験してもらいました。

武川中学校では、町が誇る日本三大桜の一つ「山高神代桜」を9分割した写真をモノクロ印刷し、9人ひと組で力を合わせて描きました。個性を認め合うことの大切さを学んでいただけたのではないのでしょうか。



賛助会研修旅行

美術館訪問バスツアー

平山郁夫画伯7回忌を前にした平成27年10月12日に、鎌倉ユネスコ協会と当財団賛助会10周年の共同企画として日帰りバスツアーを51名の参加を得て催行致しました。

バスの中では鎌倉ユネスコ協会の佐藤会長はじめ平山美知子館長を中心にマイクを回しての自己紹介の場となりましたが、それぞれに平山画伯とのつながりや思い出を語られ、大変和やかな時間となりました。平山画伯は初代鎌倉ユネスコの会長でもあったという縁もあり、それを現在に至るまで大切につないでくださっていることがよくわかる感謝のひと時でもありました。

さらに当日は透き通るような真っ青な空！そこに初冠雪をいだいたばかりの富士山。横浜発～鎌倉経由～八ヶ岳ソサエティ（昼食）～美術館の往路にぐんぐんと富士山が大きく迫り、更に八ヶ岳エリアに入ってから燃えるような真紅の紅葉に黄色や緑の葉っぱが相まって、皆それぞれに一足早い紅葉を楽しみました。美術館では『平山郁夫 シルクロード幻想』展の見どころの解説をうけ、それぞれ思い入れのある画の前に佇む姿がしばし見受けられました。平山美知子館長は最後の挨拶の中で『画家は画を仕上げればそれは人の手に渡るので手元には残らないけれども、この美術館があるおかげでまとまった作品がそこに行くと見ることができる。画家にとっては画はその人そのものなので、7回忌という節目の年にこんなに大勢の人たちが画に会いに来てくれたことを嬉しく思う』と話されていました。そう、美術館では参加者一人ひとりがきっと故・平山郁夫画伯にお会い



になっていたに違いありません。

美術館～三分一湧水館展望台～甲州街道台ヶ原宿～道の駅白州の復路は、甲斐路の魅力たっぷりでした。展望台からの南アルプスなどのパノラマは晴天と相まって目のご馳走。台ヶ原では銘酒七賢の酒蔵見学と試飲で喉を潤し、元祖信玄餅の金精軒では旧家の納屋の軒をお借りしてお茶とお菓子のひと時を。最後に立ち寄った白州道の駅ではお待ちかねの高原野菜選びをしました。美しい景色、空気に浸り、のどかなひと時を得て、心身ともに満たされて帰路に着きました。

今回の経路は、新宿を起点としない初の試みでしたが、このような充実したツアーとなり、鎌倉ユネスコ協会は関係した全ての方々に感謝申し上げたいと思います。

賛助会では、今回のような協賛型のツアーを今後も行って参りたいと思っています。

美術館を自分たちのグループや団体の単位で訪問を考えてくださる方々、バス一台には満たない規模だけれど、という場合ぜひ賛助会担当までお声をおかけください。広く美術館の会員にもお声をかけさせていただき実現できればと思っています。ぜひ、ご一緒に平山郁夫画伯（の画）に再会しに参りましょう。

（賛助会担当 喜安記）

美術館スタッフ研修旅行

○2015年10月28日（水） ○参加：26名

○見学場所：ふじさんミュージアム・旧外川家住宅 「富士講のヒミツ」展

フジヤマミュージアム 日本を代表する画家が描いた「富士山」を見学

秋も酣、紅葉が美しく車窓より富士山が左右に見え隠れし、皆さんの声が弾み楽しい一日でした。富士山は世界文化遺産に登録されてからまだ日が浅く、なお一段と世界中から人々がみえています。

富士山は江戸時代より仏と神が住む山として信仰が厚く、大勢の登山者が来るお山として崇められてきました。この時代は女人禁制、男子のみ湧水で身を清め御師の指導の元、命懸けで登ったと云われています。旧外川家は代々登山者の宿になり



「おもてなし」をされた家柄です。その時代に使用されていた食器、大切な書がいっぱい残されて展示されていました。

富士山は今も昔も変わることなく人々から愛されております。又、その魅力を余すことなく平山先生は美術館からよく見える「小泉富士」を描かれました。日本には雄大であり高貴と気品をそなえた名宝山が東西南北にあります。湧水も豊かで米も美味。本当に素晴らしい山景とともに食文化もこれから代々後世に残す使命があります。そんなことを感じた有意義な研修旅行でした。

○ワークショップ



7月5日(日)
「とんぼ玉つくりワークショップ」
(青少年向け)
講師: 藤巻 晶子(ガラス工房うず)
参加者: 11名



7月20日(月・祝)
(甲府アイメッセ・夏休み自由研究プロジェクト)
「シルクロードのストラップ&うちわに絵を描こう」
講師: ボランティアスタッフ3名、美術館スタッフ
参加者: 小学生78名



8月2日(日)
「インド・ネパールカレーを作ろう」
(青少年向け)
講師: 金子 仁香(ぼんてんや)
参加者: 11名



8月2日(日)
「出張絵手紙コンテスト&うちわに絵を描こう」(北杜ふるさと祭りにて)
講師: ボランティアスタッフ、美術館スタッフ
参加者: 小中学生64名

○講演会



10月4日(日)
「シルクロードを旅して」
(ワイン&クラフトフェスタ内イベント)
講師: 鈴木 肇・平山 美知子
参加者: 72名



11月21日(土)
平山郁夫追悼講演会
「平山先生の教え」
講師: 宮廻正明(東京藝術大学大学院美術研究科教授)
参加者: 65名

○コンサート



6月27日(土)
ドータル演奏会
演奏者: ハムラクロバ・フスノボドボヌ
参加者: 46名



10月3日(土)
「馬頭琴演奏会」
演奏者: ウルゲン(馬頭琴)タラー(モンゴル琴)脇田みのり、武井美恵子、広井聖子(馬頭琴)
参加者: 80名



6月27日(土)
受賞者5名の中から3名の参加がありました。

○「第8回平山郁夫 絵画教室」作品の展示



小淵沢中学校2年生

○オープニング

6月27日(土)
「平山郁夫シルクロード幻想」展オープニング

○スクールプログラム

6月 5日 高根中学校 1年生96名(展覧会見学・絵手紙コンテスト参加)
7月 15日 江戸川区立辰巳中学校 2年生31名(展覧会見学)
7月 28日 江戸川区立深川第6中学校 美術部・書道部17名(展覧会見学)
8月 3日 久那土中学校 37名(展覧会見学)
9月 17日 府中市立本宿小学校 160名(展覧会見学・館内でスケッチ)
11月 25日 東京藝術大学 大学生(留学生)30名(展覧会見学)

○第6回絵手紙コンテスト受賞式



6月27日(土)
受賞者5名の中から3名の参加がありました。

開館カレンダー

3 March						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5
		冬季休館				
6	7	8	9	10	11	12
		冬季休館				
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

4 April						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

5 May						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

6 June						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

7 July						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

8 August						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

3/12～6/21「煌めく布 金更紗と金糸織」展

6/25～2017/1/9「平山郁夫 道遙か」展

※2016/1/12～3/11は冬期休館

※6/22～6/24は展示替えのため休館

賛助会 だより

賛助会会員募集

賛助会は美術館の活動を支援するとともに、会員の皆様の交流をはかることを目的として発足いたしました。皆様から寄せられました会費は、展覧会の開催、講演会・講座の開催、国際交流、美術館の維持管理などに使用されます。賛助会員にはさまざまな特典（詳しくは美術館HPをご覧ください）のほか、交歓会等イベントも予定しております。皆様のご入会を心よりお待ち申し上げております。

- ◆会費 個人会員…… 10,000 円
家族会員…… 15,000 円
法人会員…… 100,000 円

- ◆受付期間 随時受け付け（毎年7月に更新。12～3月までにご入会の方は初年度の年会費は半額、4～6月ご入会の方は翌年6月末日まで有効）。

- ◆申込方法 申込用紙に必要事項をご記入のうえ美術館にご郵送いただき、所定の銀行口座に会費をお振り込みください。申込用紙ご希望の方は、美術館HPからダウンロードするか、美術館にご請求ください。

お知らせ

音声ガイドを導入

3月12日（土）から当館では新しく音声ガイドをご利用いただけるようになりました。目の前にある作品をやさしく丁寧に解説し、「見る+聞く」を存分に楽しんでいただけるガイドです。ガイドは日本語、英語、中国語の3種類をご用意しております。日本語ガイドではなんと女優の真野響子さんのナレーションをお楽しみいただけます！



文化庁 平成27年度「文化庁」地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業



平山郁夫シルクロード美術館ニュース 第21号 平成28年3月発行

発行 公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間2000-6

Tel 0551-32-0225

URL <http://www.silkroad-museum.jp>

